

# 令和4年度 第1回 森山小学校学校運営協議会 議事録

日 時 令和4年10月14日（金） 19:00～

場 所 森山小学校 図書室

出席者 委 員 森住 孝義

委 員 松永 雅行

委 員 石田 和宏

委 員 武田 光市

委 員 三橋 孝史（森山小学校長）

事務局 藤井 誠治（森山小学校教頭）

## 1 挨拶（学校長）

## 2 議事

### （1）吉野川市学校運営協議会規則確認

### （2）役員選出

役 職	氏 名	所 属 等
会 長	森 住 孝 義	森山公民館長
副 会 長	武 田 光 市	森山小学校PTA会長

### （3）令和4年度学校運営について（学校長）

### （4）意見交換

委 員：現在、学校では、オンライン学習に備え、タブレットを家庭に持ち帰らせているが、コロナ禍で学校が休校になったり、学級が閉鎖になったりする場合だけでなく、台風等の悪天候で警報が発表されたり、休校が予想されたりする場合にも、タブレットを活用してのオンライン授業をしてはどうだろうか。

委 員：子どもたちは規則やルールについてはどう考えているのだろうか。きまりを守ることや校則を守ることにについて、子ども自身が自分で考えることも大切である。子どもの意見を児童会などで聞き取り、それに大人が意見を言えるような場を設けてはどうだろうか。とりあえずは子どもと先生が意見を言い合える場があればありがたい。

委 員：タブレットの活用に話が戻るが、家庭によってWi-Fi環境が異なるが、全員で試験的につないでみて、課題などを出し合い、検証してみることも必要

である。

学校長：夏休みの登校日にタブレットを家庭に持ち帰らせて、オンライン登校日を実施した学校がある。本校も今度、このような試みを考えてみたい。

委員：オンライン授業は学校に来にくくなっている不登校の子どもにとってはメリットがある。人と関わるのが苦手な、対面の授業に参加できない子にとっては、よい手立てである。このようなことも検討してもらいたい。

委員：不登校の子どもの学習支援にタブレットを活用してほしい。一般社会の企業でもコロナ禍でオンラインでの業務が広がっている。不登校の子も社会との繋がりができるのではないだろうか。

委員：教職員の働き方改革にオンラインが活用されている例はあるか。

学校長：オンライン会議やオンライン研修がある。移動のための時間がなくなり、業務改善につながっている。

委員：実際のコロナ対応について、国は屋外ではマスクの着用をしなくてもよいと言っているが、不安感や習慣化していて、マスクを着用している人が多い。夏場は獅子舞等の練習では熱中症が心配なので、マスクを外すように勧めているが、外さない子もいる。対応の難しさを感じる。

委員：「ウイズ コロナ」と言いつつ「ゼロ コロナ」のような面もあり、違和感がある。早く5類相当の扱いになって、平常時にもどり、いろんな活動ができることを願っている。

学校長：学校では、国のコロナ対策の指針に基づいた県や市の通知・通達に沿って対応している。感染リスクの高い活動については、指針に沿って、活動を控えたり、工夫して活動したりしてきた。金管バンドの活動がその一例である。

委員：アルミ缶回収でアルミ缶を潰してはいけないのはどうしてだろうか。

委員：アルミ缶を潰すと大きなブロックにするときにくっつきにくくなるらしい。縦に潰すのが最もよくない。

委員：学校はスチール缶は回収しないのか

学校長：学校では取り扱っていない。

### 3 事務連絡

- ・第2回学校運営協議会について